

ノティシア・デ・ティキシア Noticia de Tiquicia

一般社団法人
コスタリカ社会科学研究所
機関紙 創刊準備号
2019年11月29日

Foto de Tiquicia No.1

「幻の鳥」ケツァール



撮影: 足立力也

和名 : カザリクヌバネドリ
英名 : Resplendent Quetzal
学名 : *Pharomachrus mocinno*
分類 : ブッポウソウ目キヌバネドリ科
体長 : 40cm弱 + 雄の飾り羽根 最長64cm = 約1m
形態 : 頭部と背部の緑と腹部の赤のコントラストがハッと目をはなれさせる。クリクリお目々が可愛らしいが、正面から見ると実はモヒカン頭。メスは飾り羽根がなく、やや地味。光の具合で、羽の色が青味を帯びることもある。
生態 : モンテベルデ自然保護区やロス・ケツァール国立公園など、主に標高1500m～3000mの雲霧林でよく観察できる（地図参照）。
主にアグアカティージョ（リトルアボカド）の実などを食べ、地上5m～25mの木の幹に巣を作る。
繁殖期の12月～1月が見頃だが、近年は年間を通じて観察できる場所もある。



青い地域が棲息範囲（出典: A Guide to the Birds of Costa Rica, BirdPhotos.comなど）

ご挨拶

2019年8月28日、一般社団法人・コスタリカ社会科学研究所を設立いたしました。

近代哲学の基礎を築いたイマヌエル・カントが1795年、著書『永遠平和のために』の中で「常備軍はいずれは全廃すべきである」と唱えてから、すでに200年以上。軍隊をすてた“丸腰国家”として、コスタリカはようやくその理想を揺るぎない現実のものにしました。

ローマクラブが『成長の限界』の中で、「右肩上がりの経済成長には限界がある」と警告したのが1972年。それから半世紀弱、ついにコスタリカも持続可能な経済の構築に本腰を入れ始めました。

“丸腰国家”から“持続可能国家”へと変貌を遂げようとするコスタリカを研究する意義は、「人類はどのように進化できるのか」という問いを深めるところにあります。

もっと言えば、「“善く生きる”とはどういうことか？」という、社会科学が始まって以来の哲学的テーマに対する、現時点でのひとつの解答サンプルを解析することです。

残念なことに、日本ではこのような社会科学的研究に、あまりリソースが費やされていません。であれば、私たち一人ひとりがリソースを出し合って、現代の私たちに課せられた課題を明らかにし、以前より進歩した状態で次世代にバトンをつなげていく方法を考えなければなりません。

その方法のひとつとして、この研究所は生まれました。

皆様の力で、この研究所を育てていただければ幸いです。

代表理事 足立力也

コスタリカ社会科学研究所：5つの機能と業務

＜当研究所は、以下の機能と業務を担います。＞

(1) 研究室

コスタリカに関するあらゆる分野の社会科学的研究を行います。

イニシャル・プロジェクトとして、「**持続可能国家プロジェクト**」（3ページ参照）を立ち上げます。現代世界の喫緊の課題である「環境危機」への回答として、コスタリカは「脱炭素化経済」の構築を宣言しました。持続可能な社会へ取り組むことになった経緯や内容の詳細について研究・発表を行います。

同時に、政治、経済、文化、社会など、他分野の研究者も含めた研究活動も進めていきます。

(2) 資料室

足立力也が長年にわたって収集し続けてきたコスタリカ関連書籍や一次資料などを中心に、北中南米・アジア・アフリカ・ヨーロッパ・オセアニア各国事情の書籍・資料のほか、各学術分野の基礎文献を集め、開架式で公開します。プロの司書が、書籍や資料の整理からリストのデータベース化、ネット公開まで管理します。

<https://librize.com/costarica>

コスタリカに関する一次資料のコレクションは国内随一を誇ります。閲覧はもちろん、貸出も無料で行います。



(3) コスタリカ・ピース&エコツアー



代表理事である足立力也はこれまで、個人として現地ツアーを20回以上企画し、日本の皆様を現地にご案内してきました。今後は弊所が担当し、より充実した内容で、「未来社会の実験国家」の現実の姿を生で見聞するツアーを企画します。

国会などの政府機関、病院などの公的機関、学校などの教育機関から民間企業、協同組合などまで含めたさまざまな組織で「丸腰国家」「持続可能国家」を構成する人びとの話を聞く**テクニカル・ビジット**に加え、2日間以上自然の中に身を浸す**エコツアー**、古きよきコスタリカが残る郊外で現地の人びとが大事にする価値観を肌で感じられる**ローカルツアー**など、当研究所代表理事の足立力也が積み重ねてきた経験や研究成果を交えながら、統合的に現地を見聞する、唯一無二の機会です。

次回は2020年2月4日出発予定です。詳しくは折込チラシ、または（株）マイチケットのウェブサイトをご覧ください。

(4) 資料収集・現地調査

必要に応じてコスタリカを訪れ、資料の収集やキーパーソンへのインタビューなどの調査を行います。それをもとに、「**持続可能国家プロジェクト**」を含めた**独自研究**を進めます。

(5) イベント

カフェ/イベントの場として、ミーティングスペースとして、映像配信スタジオとして……。小規模ですが、足立力也事務所に併設するスペースを利用し、公開/非公開のイベントを開催します。右方に福岡市民の憩いの場である油山、左方遠くに福岡タワーを臨む高台に立つ見晴らし抜群のカフェスペースで、**コスタリカコーヒー**を楽しみながら、コスタリカや世界、日本の今とこれからのためのアイデアをシェアします。

資料室から

はじめまして、資料室司書の古島と申します。普段はとある町の図書館の司書をしています。代表理事とは大学図書館勤務時代のご縁で、この＜コスタリカ社会科学研究所資料室＞の立ち上げに関わることになりました。

資料室、イチからの立ち上げ！私にそんなことができるのか、と空っぽの書架と大量のダンボールを前にこわごわ始めたのが夏の終わり。書架の配置を決め、段ボールに詰まっている本を出し、どう配架するかについて度々代表理事と揉め(笑)、「資料を広く公開したい」という代表理事の意を汲むべく登録をすすめてきました。

完了分は600冊ほど、「リブライズ」にて公開していますの（上記参照）で、是非覗いてみてくださいね。資料は「足立力也著作」を筆頭に、「コスタリカ関係」のほか、「平和学」「環境」「教育」などの分野別に配架しています。今後は本以外の貴重な“資料”類の整備も進めていく予定です。微力ながら、資料提供の面でお役に立てるよう頑張ります。

当職の「7つ道具」。スキャナ、バーコードリーダー、ソルベント、筆、ピッチャ、アルコールタオル、マスキングテープ。



イニシャル・プロジェクト = 「持続可能国家」



水力発電の大規模電源であるアレナル湖を臨む丘陵地帯に立ち並ぶ風力発電の風車群

当研究所の第一号プロジェクトは、持続可能な社会を目指すコスタリカの挑戦を解き明かす調査研究です。

2007年、オスカル・アリアス大統領（当時）は、「100%再生可能エネルギーによる発電」と「国全体でのカーボン・ニュートラル」という、極めて野心的な国家目標を宣言しました。

それから10年足らずで、ひとつめの目標達成にめどが立ちました。火力発電を非常時のみ、通算で総発電量の1%台に抑えたのです。

2018年、軍隊廃止宣言70周年記念式典において、カルロス・アルバラード現大統領は、「丸腰国家」を達成したコスタリカの次の国家戦略目標こそ「脱炭素化経済」だとあらためて宣言しました。



近年盛んに電源開発が進む地熱発電

2019年9月の国連気候行動サミットで、コスタリカは地球大賞ポリシー・リーダーシップ部門を受賞しました。すでにコスタリカは、気候変動に対処し、持続可能な世界をつくるリーダーとして、世界から認められつつあります。

では、コスタリカが描こうとしている持続可能な未来とはいったいどういうものか？その起源はどこにあり、これまでどんな道を歩んできたのか？それを明らかにするのが、このプロジェクトです。

軍隊を廃止した48～49年の革命時には、自然エネルギーを有効に利用し、自然を過度に破壊しない方針が示されました。80年代に勃興したエコツーリズムは、もはやコスタリカの代名詞にもなっています。90年代末に成立した生物多様性法も、森林資源を「切って換金するもの」から「育てて持続的な豊かさを育むもの」というパラダイム転換の表れです。

研究対象となるのは、政治などの公的セクターから、技術革新を含めた民間セクターの関与、環境と人類の活動の関係性をとらえる市民の意識の変容など、ありとあらゆる人・シーンです。それらを包括的に調査・研究し、広く発表します。

過去から未来へつながるその軌跡を明らかにすることは、希望ある持続可能な人類の将来を模索するヒントとなるでしょう。

※ネットメディア「ハーバービジネスオンライン」で、「持続可能国家」というタイトルで調査研究の成果を連載中です。

https://hbol.jp/hbo_series_group_name/「持続可能国家」コスタリカ

（「ハーバービジネスオンライン」「持続可能国家」で検索）



ワンポイント・豆知識 ～タイトル編～

Nothicia（ノティシア）：

ニュース。知らせ。

Tiquicia（ティキシア）：

「コスタリカ人（Ticos）の地」という意味の俗語。一般的に使われる言葉ではない。コスタリカには、「Son de Tikicia」（ティキシアの調べ）というサルサグループがある。つづりが違うが、意味は一緒。

「未来世代への公共投資」を募ります！

ご紹介した当研究所の諸事業は、**不確かで不安な未来に対し、希望ある将来を提示するための社会科学的アプローチ**のひとつです。これは、**公共に資する事業**だと確信をしています。

これには、継続的に多額の経費がかかります。ですが、公共に資するからといって、当然その原資が税金でまかなわれるわけではありません。

私たち自身の、そして次世代のために、私たち自身がその原資をまかない、私たち自身で、よりよい社会をつくっていく必要があります。それこそが、本来の意味での「**公共投資**」です。

そこで、当研究所では皆様からの「公共投資」として、**年会費を拠出していただくサポーターを募集**し、それを原資に、一般社団法人として研究活動を発展させていただく形にしております。

サポーターの皆様には、当機関紙の他、未来国家の「実験」を続けるコスタリカの最新情報をお届けします。その他、サポーター限定の様々な特典や割引なども準備いたします。

当研究所の趣旨にご賛同いただける方は、ぜひサポーターとなって支えていただきますよう、お願い申し上げます。詳細は下段をご参照ください。

サポーター申し込みは、以下の要領で！

■ウェブから(足立力也へいわ本舗お問い合わせフォーム) <https://adachirikiya.com/inquiry>

当欄右下のQRコードからも上記フォームにアクセスすることができます。

お名前、ご連絡先（メールアドレス、ご住所、電話番号）をご記入いただき、お問い合わせ内容に「コスタリカ社会科学研究所サポーター加入」とご記入いただいた上で、右記振込先に年会費（個人1万円、法人10万円）をお振込みください。

■メールでお申し込みの方

info@adachirikiya.com

まで、お名前、ご連絡先（メールアドレス、ご住所、電話番号）をご記入の上、「コスタリカ社会科学研究所サポーター加入」とお書き添えいただいて、右記振込先に年会費をお振込みください。

■ファクスでお申し込みの方

下記ご記入の上、092-836-6604にご送付ください。

・お名前：

・連絡先（メールアドレス、ご住所、電話番号）：

・ステータス： 個人 / 法人

■振込先

福岡銀行
天道支店
(普)
1441786
足立力也

もしくは
ゆうちょ銀行
記号
17470
番号92222061
名義
アダチリキヤ

お問合せ
フォーム
QRコード
↓



編集後記：

コスタリカ研究を始めた時期を大学院からとすると、もう四半世紀になります。当初は誰も知らない国でしたが、現在ではテレビの地上波でもしばしば登場するようになり、隔世の感があります。

初めてコスタリカを訪れた1992年末、現地到着後最初に買った新聞の1面トップは汚水問題についての記事でした。環境問題の深刻さと意識の高さの両方が印象に残っています。

環境問題は深刻化の一途をたどる一方で、持続可能な社会への模索も続けるコスタリカ。経済的にはそれほど豊かではないにもかかわらず、そんなトライができるのも、軍隊のない平和な社会だからこそ。その秘密を解き明かす事業にリソースを集中させるため、一歩前に進んで、一般社団法人を設立するに至りました。

動き出しはしたものの、まだまだ事務所や資料室の物理的整備、銀行口座開設、ウェブサイト立ち上げなど、準備段階の作業がてんこ盛りです。それらをスムーズに進めるため、みなさまの人的・資金的サポートを、ぜひお願いいたします！

(足立力也)



<発行>

一般社団法人 コスタリカ社会科学研究所
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目19番17号
トーカン博多第5ビル312号室